



小牧市民病院 眼科医長  
おおたけ しんや  
大竹 慎也

糖尿病と眼の病気



糖尿病は一言で言うとう細かい血管がぼろぼろになって詰まったり、出血したりする病気です。糖尿病と眼は深く関わっており、次のような合併症が知られています。

糖尿病網膜症

網膜とはカメラで言うフィルムです。網膜には大変細い血管がたくさん走っています。糖尿病が続くとこれらの網膜の血管が詰まったり、出血したりします。これが糖尿病網膜症です。糖尿病網膜症は大きく次の3段階に分けられます。

第1段階 単純性網膜症

最も軽い段階で、網膜にぼつぼつと出血している状態です。この段階ではまだ網膜に血は巡っているため、眼科としての治療はありません。

第2段階 増殖前網膜症

網膜の血の巡りが悪い場所に綿花のような白い斑点が出現します(軟性白斑)。この段階になると、眼にレーザーを当てて網膜を焼く治療が必要になります。

第3段階 増殖網膜症

悪い血管(新生血管)が網膜に生えてきます。この血管は網膜を引っ張って網膜剥離を引き起こしたり、簡単に血管が破裂したりして眼の中で大出血を起

します。こうなると手術が必要になります。

白内障

白内障とは眼のレンズが黄色く濁った状態です。誰でも歳をとると白内障になりますが、糖尿病があると白内障が早く進行することが分かっています。

白内障の症状は視力低下以外にも明るいとこで眩しい(羞明)、ものが二重に見える(複視)、霧がかつて見える(霧視)など、いろいろな症状が出現します。生活に支障をきたすようになったら手術が必要となります。

黄斑浮腫

網膜の中心を黄斑おちばんと言います。この部位は視力に関わる特に大切な場所です。網膜の血の巡りが悪くなると黄斑に水がたまってぶよぶよにむくむ事があります。これが黄斑浮腫で、視力低下、ゆがむといった症状が出ます。増殖前網膜症以降で出現します。またレーザー治療の副作用で起きる事もあります。

治療はむくんでいる場所にレーザーをする方法、ケナコルト®という薬を白眼に注射する方法、アバスチン®という薬を眼球に注射する方法、手術といういろいろ選択肢があ

りますが、再発も多く治療が難しい病気です。

糖尿病性視神経症

視神経に栄養を送っている血管が詰まると眼の神経が死んでしまうことがあります。大幅に視力が低下します。これも治療が難しい病気です。

ぶどう膜炎

虹彩、毛様体、脈絡膜、と言われる眼の部位に炎症が起きる事があります。これがぶどう膜炎です。視力低下、霧視、眼痛などの原因になります。ステロイドの点眼、注射で治療します。

おわりに

糖尿病網膜症は日本人の失明原因の第2位です(第1位は緑内障)。糖尿病網膜症がなぜ怖いかというと、ひどい状態になるまで視力が低下しないため、気づいたら手遅れということが多いからです。そのため、早期発見、早期治療が大切です。お家の近くの眼科開業医さんをかかりつけ医に決めて、内科とセットで定期的に受診することが重要であると最後に強調したいと思います。

問合先 市民病院 (☎76-41

31)